
コードギアス～復活のルルーシュ～

妖精

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「コードギアス／復活のルルーシュ」

【作者名】

IZUMI

【作者名】 妖精

妖精

【あらすじ】

見たくない人は見ないで下さいそれとオリジナルキャラクターも出します。苦情が来ても書き続けるので感想のほどお待ちしております。

「コードギアスを確実にパクつてると想います
すみませんm()m

契約

ルルーシュ

「ここは…………」

ルルーシュは白い空間にいた誰が居るわけでもない真っ白い空間にいた

ルルーシュ

「俺は確かに…………」

そう言いながら自分が刺された腹を触るその時、後ろから誰かが静かによつてくる。

？？

「兄さん、ここは死後の世界じゃあ無いんだ…………」

誰かが言いにくそうに言つ、振り向くとそこには口口がいた

口口（コードギアス反逆のルルーシュ R2 参照）

ルルーシュ

「…………口口…………」

ルルーシュは自然と落ち着いていた驚きは無かつた

口口

「…………」

黙り込んでいる口口にルルーシュが声をかけようとした時後ろから

？？

「まあ何考えてんのか分からないが、どうせ色々と考えてんだろう、用意周到に…………ねえ」

振り向くとそこにはマオがいた

ルルーシュ

「…………マオ…………」

マオ

「ボクはもうギアスを持つて無いんだ…………これでうがつたい声を聞かなくていいんだ、嬉しい限りだよ」

ルルーシュ

(マオまでいると云つことは他にも誰か居るのか)

考へているが頭が働かない、と言つより上手く機能しないだがルルーシュは冷静だった

マオ (コードギアス反逆ルルーシュ 14~16話参照)

マオ

「でもC・C・（シーツー）が居ないんだ、それだけは喜べない…C・C・がいて初めてボクは喜びC・C・と共に幸せになれるんだ…速く来ないかなC・C・速く来てくれよ、そして二人で幸せに…」

そんなことを言つてゐるマオをほつといてルルーシュは口口の空間について聞こうとするが口口は答えない

？？？？

「無理を言つな、そいつは何も知らない」

ルルーシュ

「……………！？」

いきなり現れた、髪は長く緑色、C・C・と何ら変わらないルルーシュは初めて驚いていた

C・C・

「ふふつ大分驚いているな、お前はここが死後の世界だと思つていたのか？」

ルルーシュ

「C・C・…………」

何も言葉が出ないルルーシュに誰かが声をかけた

？？？

「全く君はいい素材だ、僕は君に質問と契約をしこきたんだ」

C・C・の右隣にいた男が言つ

？？？

「僕はアリス・シルクハント、よろしくね」

ルルーシュ

「アリス…………聞いたことがない名前だな」

アリス

「まあいいじゃん、それより本題だ君は……生きたいか？」

ルルーシュ

「さあな……」

ルルーシュはそつけない返事を返したアリスは続けて

アリス

「君を生き返してやるの、と言つたらどうする？」

その言葉を聞いたルルーシュはそつけない態度をとりつつきいた

アリス

「君を騙そうとしてるんじゃない、確實に君を生き返してやると言つているんだ君だってあの死に方は嫌だろ？、だからぼくがきみを

……

ルルーシュ

「どうせ何か裏があるんだろ？、出なければなぜ焦つている……
理由を言え！」

アリス

「君は今僕のギアスでこの場にいる……」

ルルーシュ

「死後の世界に闇と出来るギアスなど聞いたことがないが」

アリス

「元々ギアスを作つて他の人にばらまいたのは僕なんだ」

ルルーシュ

「ではC・C・にも？」

アリス

「それは違うC・C・のは別の奴が契約したんだ僕じゃない」

ルルーシュ

「ならV2（ブイツー）やシャルルはどう説明する？」

アリス

「そいつらも僕じゃない」

ルルーシュ

「ならだれにばらまいた?」

アリス

「自分自身にさ、もちろん自分じゃない自分にさ」

ルルーシュはしばらく黙つた言葉の矛盾に気がついたからだ

ルルーシュ

「クローン技術か……」

アリス

「良くわかつたね、さすがだよその僕との契約は」

ルルーシュ

「ギアスを手に入れたらそのギアスがなんであれうと俺に寄越すこ
と……だろ?」

アリス

「良くわかつたねやつぱり最高の素材だよそれでも君は生きたくないのかい?」

ルルーシュ

「いや、生き返してくれるなら生き返して貰おうか」

アリス

「わかつたよ、ありがとう」

ルルーシュ

「ただし、条件が……」

アリス

「大丈夫だよ生き返つた後でも条件は聽けるそれじゃあ
そう言つてルルーシュの目の前で手で三角を作り

アリス

「ルルーシュ・ヴィ・ブリタニアに一度目の人生を
その瞬間ルルーシュとその回りに居た奴らも消えた

ルルーシュは目を覚ます、

ルルーシュ

「ここは……………？」

アリス

「ここは国だ……………君の為のね……………」
声のする方に向く、ルルーシュは畳然としている

ルルーシュ

「……………」

アリス

「どうした？」

ルルーシュは顔を赤らめ顔を伏せる

ルルーシュ

「服を着ろ！！」

足下においてあつた服を投げつける、

アリス

「うわぶつ……！」

間抜けな声と共にアリスは倒れる

アリス

「なんだいきなり、……服を投げつけるな！」

ルルーシュ

「なんだじやないだるうー何故服を来ていないー！」

アリス

「別にいいだるう、風呂上がりなんだから
そう言いながら不服そうに服を着る

ルルーシュ

「つて言つか、お前は男だつただだるうー！」

アリス

「つて言つか、お前は男だつただだるうー！」

「向こうのアイツはな、こっちのは女だ！だがそれがどうした？」
平然と聞いてくる彼女に対しルルーシュは辺りを見渡した

ルルーシュ

「…………」

しばらく黙った後

ルルーシュ

「ここは？」

アリス

「また同じ質問か？、違つ質問は無いのか？」

ルルーシュ

「ふん、ならば質問を変えよう。俺のだす条件についてだ、あつちのお前は生き返つてからも…………」

アリス

「あははいはいで、条件は？」

ルルーシュ

「…………」

腑に落ちない点はあつたが少し黙つた後に言つた

ルルーシュ

「俺のギアスについて、」

アリス

「その事についてはもうやつた」

ルルーシュ

「もうやつた？」

アリス

「ああ、お前のギアスは絶対服従のギアスだつただろ？？」

ルルーシュ

「あ…………」

アリス

「そのギアスを私達のギアスと取り替えただけだ」

ルルーシュ

「貴様らのギアスと？」

アリス

「私達のギアスは運命的で必然的に当たつたギアスだ、私達にはもういらない」

ルルーシュ

「そのギアスの名は？」

アリス

「神のギアスだ」

ルルーシュ

「神の……ギアス……」

アリス

「ああ、どんなことでも叶うギアスだ」

ルルーシュ

「どんなこと……でも？」

アリス

「どんなことでもだ」

ルルーシュは少し考えた

「なら誰かを生き返すことも？」

アリス

「可能だ……ただし……や私、↙には聞かない……」

「それとこの国はお前の国だ、構造から言うと空に浮いていて日本全土がすっぽり入る広さで東西南北にて街を設置したそれに合わせて季節も決めたこの大陸は太平洋に位置し、海の水を吸い上げる際に塩水を水道水に変化させている、それをこの大陸の中心部である山々から流す、そうやって大陸の隅々から滝ができる海に流れる。貴様はこの国、いやこの大陸の王だこの大陸をどうするかは貴様が決める」

ルルーシュ

（左目はギアスの感覚があるが……）

「このギアスのオンオフは?」アリス

「自分で出来るだろう、さあどうするんだこれから」

アリスはルルーシュに聞くだがルルーシュは他の質問をした

ルルーシュ

「何年だ?」

アリス

「は?」

ルルーシュ

「だから、あれから何年たつたと聞いている、5年か10年か?」

アリス

「1年だ」

ルルーシュ

「1…………年…………?」

アリス

「そう1年だ」

ルルーシュ

「たつた1年でここまで」

アリス

「世界は驚いて今も攻撃を続けている意味がないのに」

ルルーシュ

「ドロイトシステムか」

アリス

「…………すごいねでもちょっと違うドロイトシステムのシールド」

一枚一枚の強度は通常の三千倍だ」

ルルーシュ

「どうりで衝撃がないわけだ」アリス

「この国の自衛隊もいるそれも一人一人がスザクと同じ技量を持たせてある」

ルルーシュ

「突如現れた物に対しての発泡……話し合いはどうした?」

アリス

「ちなみに君の知能は下げておいた作者は君みたいに頭が良くないんだ下げるしかないよその他には運動神経などはスザクと一緒にした」

ルルーシュ

「そんなことを聞いているのではない、俺が眠っている間になぜ代理を立てて話し合いに行かない」

アリス

「へえ、何でそつ思つ?」

ルルーシュ

「普通こんな大陸が突如現れたなら和解を求めて通信で話すはずだ、そこでこちから返信が無ければ猶予ぐらいあるだろ?」

アリス

「モニター見るかい?」

ルルーシュは少し考えていた。決断は…………いかに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8614z/>

コードギアス～復活のルルーシュ～

2011年12月28日22時52分発行